

内容が充実した老連理事会

県老連会長表彰伝達式

全国老人クラブ大会

永山隆造先生の講話

1月27日(金)、午前10時から町文化センター多目的ホールで開催、単位クラブ会長など55人が出席した。

◎開会 進行 高木洋一事務局長

一、会長挨拶

久しぶりの大変良いお天気になりました。今日は、我々老人クラブを応援なされている「ときわ会病院」の永山隆造先生から講演を頂くことになっています。

また、今日の表彰を受けられる3団体と8人の皆様おめでとうございます。これからの益々のご活躍を祈念申し上げます。

最後に皆さんにお願いがあります。一つは、会員の増強です。各単位クラブに5人位ずつ会員を増して頂くよう会長さんをお願いします。

もう一つは、町からの補助金を有効活用して下さい。今後とも老人クラブをよろしくお願いします。

二、来賓挨拶 県老連事務局長 五戸秀樹様

幸せは、高齢者自身の手で作りますよという合言葉で老人クラブが成り立っています。お互いに「睦みあい」「助け合い」「そして支え合う」という形が老人クラブという流れで現在に至っています。

三、県老連会長表彰伝達式

県老連常務理事・事務局長 五戸秀樹氏より次表の通り伝達された。

青森県老人クラブ連合会 会長表彰 (二〇二二・二〇二三年)
優良単位クラブ
同 矢沢長寿会 (清野草名義会長)
同 館川シニア倶楽部(木村トモ子会長)
同 常盤養命会 (三上 一会長)
同 木村美智子(町老連副会長)
同 神 昭子(町老連副会長)
同 佐々木了子(町老連監事)
同 竹嶋 暎子(仲町登喜和会長)
同 田澤 順子(曲新田健老会長)
同 坂岡 明(柳壮寿会第二会長)
同 白戸 治(東町シニアクラブ会長)
同 相坂ナツエ(白子高砂会長)
同 館山 新一(町老連会長・県老連監事)

発行者 藤崎町老人クラブ連合会 広報委員会 藤崎老人福祉センター内 電話 七五―三三三二



四、全老連創立60周年記念・同大会のDVD観賞

天皇皇后両陛下はじめ総理大臣(代理)等が出席され、天皇陛下からは、ご祝辞を戴き、私たち高齢者を大事にされている事に、感銘を受けました。

五、講話

演題 「これからどう生きるか」

講師 ときわ会病院 永山隆造 先生



永山隆造先生

皆さんこんにちは永山です。実は今年の7月で88歳になるんです。医者をやっていた関係上、40や50歳の時、老人クラブに呼ばれて話に行ったら大変苦痛だったんです。今88歳になって考えてみて、館山会長さんに今考えていることがあるんで話させてくださいませんかとお願ひして今日来たんです。

「どう生きるか」ですが、私一番思っているのは「どう死ぬか」ということなんです。「どうやって死ぬのが一番いいか」「これから死ぬまで、どうやって生きればいいのか」これが一番大変なんですよ。

平均余命、これで自分の生きる長さを知り、将来の計画をたてなくてはならない。自分自身は人の厄介になって「おむつ」をしてもらって生きたくないなと思うんです。じゃあそうなりたくないとなると惣菜を買わない、自分ひとりでご飯作りなんですけど、健康を考えてするとなかなか死ねないんです。

家内が亡くなって5年経つんですけど洗濯はしなくちゃならない、清掃しなくちゃならない。家内が亡くなってから「女の仕事はものすごくいっぱいあるんだなあ」「つくづく女って偉いもんだなあ」と思っ、これから後何年続くんだろうと考えると嫌になってくるんです。でも笑ったり誰かと会ったり、また、楽しいことでもあれば、まだ生きていきたいと思うんですよ。

どうやって死ぬのいいか？私は、88歳になるんですけど来年・再来年も生きるんだろうかと考える支度しなくちゃならないです。人工呼吸器・点滴などしないで、そっと死なせてくれよというよう

なことを周りにも言うし、書いておくことも必要でしょう。

あらかじめ財産をどうやって分けるか？子どもたちに相談しながら準備しておいた方がいい。私自身は癌で死ぬのが一番いいのです。今、私たちが死ぬのであれば、老衰が一番。すーつといつてしまふ。これが理想です。癌はかかって死ぬまでが長い、おおよそ3ヶ月です。その間に、今言つたような準備が出来ると、自分の整理もしながら死んでいくことが出来る。

何とか皆さんが施設とかに入らないように楽しく死ぬるためにはどうしたらいいか。これは日常生活をどうするかというだけのことなので、皆さんが話し合ひ、それぞれ話し合つていく会になればいいなあ。

これは日常生活をどうするかというだけのことなので、皆さんが話し合ひ、それぞれ話し合つていく会になればいいなあ。



表彰受賞者・永山隆造先生囲んで記念撮影

無理にお願いして話をさせて頂きました。ご静聴ありがとうございました。

◎閉会

11時45分に終了した。その後県老連会長表彰受賞者を囲んで出席者全員で記念撮影を行い、日程を終了した。表彰祝賀会はコロナ禍感染拡大防止のため行わず、弁当を持参して解散した。

第3回自動車免許証更新前の認知機能検査相談会のお知らせ

現在、75歳以上の方は、認知機能検査を受けなければならなくなりました。不合格の場合、運転免許の取消しや自主返納などになります。

- ・免許更新はまだ先だが、今の実力を維持する方法はないか(70〜74歳でもOK)
- ・自主返納した方がいいのか
- ・今回免許更新はあきらめた方がいいのかなど、と悩んでいる方は、気軽に相談(練習)において下さい。(車を使った講習ではありません。)

交通事故を起こさないために、是非、相談会に参加して下さい。

一、講師 行政書士 田中Bn事務所長 田中 敏春氏

電話 七五―六八二九

二、日時 3月23日(木) 午前10時〜12時

三、会場 藤崎老人福祉センター集会所

四、参加人数 1回当たり10名、(三密対応の為)

人数が多い場合は回数を多くして対応します。

五、参加費用(練習用資料等) 五〇〇円(当日集金)

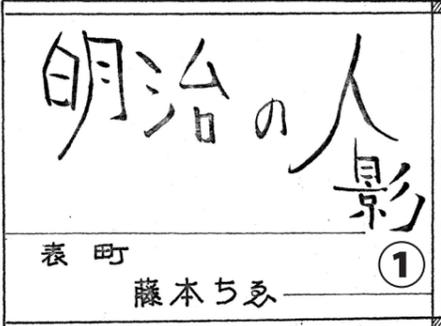
六、申込締切 3月8日(水)

申込先 藤崎老人福祉センター窓口 常盤老人福祉センター窓口

◇申込用紙は両センターに準備しています。

3月行事予定表			
日	曜	行事	時刻
1	水	レクダンス部	13:00
2	木	囲碁・将棋部	12:30
3	金	老連役員会	10:00
4	土	レクダンス部	9:30
5	日		
6	月	芸能部	12:00
7	火	囲碁・将棋部	12:30
8	水	茶道部	13:00
9	木	囲碁・将棋部	12:30
10	金		
11	土	レクダンス部	9:30
12	日		
13	月	生け花部	10:30
		芸能部	12:00
14	火	囲碁・将棋部	12:30
15	水		
16	木	広報委員会	10:00
		囲碁・将棋部	12:30
17	金		
18	土	レクダンス部	9:30
19	日		
20	月	健大OB役員会	10:00
		芸能部	12:00
21	火	春分の日	
22	水	茶道部	13:00
23	木	免許認知機能検査講習	10:00
		囲碁・将棋部	12:30
24	金		
25	土	レクダンス部	9:30
26	日		
27	月	生け花部	10:30
		芸能部	10:00
28	火	囲碁・将棋部	12:30
29	水	【白寿】配布日	16時以降
		女性部総会	10:00
30	木	囲碁・将棋部	12:30
31	金		

先輩に学ぶ (33)
 旧藤崎町老連文集「白寿」から
 第三号 昭和59年度 (20)



小頭のK・Oは朝早く台所から「親分唯今参上」とやってくる。

親分は、朝トメ番が魚を持って来るのを待つて食事をする事になっていた。川のトメ番の交代は朝の6時と晩の6時である。朝上がった魚を料理して朝食とする。主に川マスやサケで、サシミと照り焼きを作った。親分と小頭と親分の子供達、それに居合わせた人達で、毎朝六・七人の朝食になる。子供等は川マスのサシミで真田虫病になったものだった。当時真田虫を「シバク」と言った。

ところで、この小頭のあだ名は「舟場のオベ様」(オベ様=物知り)と言った。ある年、村会議員の選挙があり、消防からも一人出すことになり、色々人選の結果、舟場のオベ様にお鉢がまわり遂に当選した。ある日、村会の会議中に夕立があり雷様が強かった。するとオベ様は「雨はかんたんに降る。ざんじにしてやみ、雷鳴しきりなり」と大きな声で言ったそう。又、その前年腸チフスが流行して避病院が満員になり、ご飯の鍋がこわれてしまった。それを議会にかけるに「避病院のナベ、ハカイ、同時に新築の件」と言ったそう。それ以来この人のあだ名は「シンチク」になった。

7月のある朝、羽織りを着て親分の玄関に立って「御免」といった。家の若い者が出て見たら、いつも台所から来るオベ様であったので、お前どうしたのかと聞いたら「親分が村会議員になったから、今度玄関から来いというたはで……」とユカタの上に羽織を着て来たのだった。昔の人は変なところに礼儀正しかったと思う。(つづく)

常盤ひとり旅 第二回

石澤清五郎

常盤の巻 其の2 平成15年2月

村内神社で年縄が奉納されてる地区は神、徳下、福島、福館、常盤の五社となっている。この年縄の作り方や大小に差があり、また奉納に当たっても軽トラに積んだり清裸になったりと様々だが、常盤八幡宮年縄奉納行事は常盤村無形民俗文化財に指定(昭和63年3月19日)されている。その指定申請書によると次の通り書かれているので参考までに抜粋して申し述べる。「年縄奉納についての文献は一切見当たらない。これは国の政策上に関係なく、全く民間の信仰行事であるが為で、当時民間に文筆者が少なかった故と思われる。現在続けられている弘前市鬼沢、五所川原市飯詰地区では江戸時代と称しているが文献がないのでこれも定かでない。常盤八幡宮年縄奉納も右の通りで事実を証明するものは、昭和10年からの記念写真だけである。しかし古老の語るところによれば「八幡宮建立当時から1年も欠かすことなく続けられてきた」と言い伝えられ、代々それを信じ現在に至っている。常盤八幡宮の建立は、神主田太夫の本柳村(貞享3年常盤村と改称)八幡堂覚に「右御堂八万治7年(寛文4年=一六六四)二村中旦那共新建致候」とあり、また社堂境内記に「南向、一尺六寸神楽殿あり……」

注連縄は社の祭りに際して、奉納されていたことは、日本書記、古事記にも見られる点等から、神代の時代からのものと思われる。

以上のことから察するに、常盤八幡宮の年縄奉納行事は、形態に変化はあつたろうが、相当古くから続けられて来た行事であると解される。

古来、若者組、青年団の手で続けられて来たが、社会の移り変わりにより昭和51年から常盤地区コミュニティ活動推進協議会(俗称「部落会」)が引き継ぎ、年々盛大……。

古来津軽一円で行なわれてきた行事と思われるが一時姿を消し最近各地で復活しつつあるも、製作場所は地区の集会所等を利用したり、奉納の際は、リヤカーや自動車に積む等して部落を一巡している。常盤地区は初奉納より1年も欠かすことなく(古伝)製作に当たっては御宿の風習を続け、奉納

の祭は水垢離で身を浄め、まわし1本の姿を守り続けている。

このように古来からの伝統を守り奉納……。以上の点からこの行事を永久に継承していく価値があると認められ……。」と書かれてあった。(つづく)



藤崎町広報誌より

【白寿】よ有難う

今月もまた班長さんが老連で出されている【白寿】を持ってきてくれた。毎日毎朝とついている「東奥日報」を読むことが日課の様なものではあるが、老連で毎月出されている【白寿】を読むことも楽しみのひとつである。

【白寿】は県内にある出来事、情報、また町内の老人会の話、健康に役立つこと、交通安全に関することなど大変役立つています。身近にある話題、各老人会の研修旅行、勉強会、お楽しみみの行事、いろいろ知ることが出来ます……。

何気無く令和5年の1月号に目をやったら、【白寿】はもう二〇八号、単純計算をして1年12号であるので、二〇八号では実に17年有剰となります。本当にありがたい頭が下がります。

またもう一つですが【白寿】に掲載されている「歯なしの話」も大好きで佐藤透さんの身近な語り、生活に役立つ知恵、知識、世渡りの役立つ生き方等、その見識に驚かせられます。

「歯なしの話」も早や「二九回」となっています。佐藤透先生は知る人ぞ知る歯科の大先生、生活に根づいた勉強になる面白い話ばかりで恐縮しております。今後もずーっと続けられることを願ってやみません。取り止めのないことを書きましたが……悪しからず悪しからず……

【白寿】よアリガトウ!

◆歯なしの話 132◆

「病院を閉じること」

佐藤 透

大鰐町で内科医を開業している医師が、弟(大鰐で歯科医院開業)に「先生、病院を閉じるといふことは実に大変なことなんだよ」と言ったそうである。

まず、病院や医院は各種の許認可によって開業を認められている。閉院はその逆である。

E	その他	A	税務署	個人事業廃止
			医(歯) 国民健康保険組合	資格喪失届
D	機材	B	年金	適用事業所全喪失
			労働基準局	被保険者資格喪失
C	保管物	C	労働基準局	確定保険料申告書
			スタツフ	各種記録保管義務
B	機材等の廃棄	D	各種記録保管義務	機・機材等の廃棄
			機・機材等の廃棄	

などと、右表のように気が遠くなる残務をすることとなる。開業の時は楽しくて生き生きとしていたが、このような煩雑な業務を意気揚々としていたが、逆の立場になると気も滅入るのである。

更に出金である。先日、我が家の父のデンタルチェアを廃棄する場合は1台当たり5〜6万円×8台分を出費した。わが長兄の仲町歯科医院もしかし。更にはレントゲン・技工の機材・机・いす等々の費用は数百万となる筈である。

大鰐の内科の先生と言った言葉は、親切でこそあれ、決してお節介などではないのである。多分、思うに、どの企業であれ機材や道具を廃棄するとなると、幾ばくかの散財をするということになる筈である。

行きは良い良い、帰りは怖いのである。!!

◆短歌◆

待受の二十歳の孫の片えくぼ
 東ねた髪のような眩しき
 藤村みち女

人より一步進んだ世界有り
 異界が明かし人界最後
 浅利 茂雄

湖の上の富士に沈みし満月は
 岩木嶺の上にもまだ沈まず
 海野比呂子

暦だけの立春未だ見えぬ春
 連日寒波除雪に追われて
 清水稼志男